

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第100回

---

<タイトル>

「日本シリーズと物流改善」

<本文>

日本シリーズと物流改善。一見、その両者には何の関係もないように見えるが、実は大きな共通点がある。

その共通点とは、「そこに到達するまでのプロセス」である。

周知の通り、日本シリーズの参加資格は、セ・リーグの優勝チームとパ・リーグの優勝チームにある。

その「優勝」という条件がおもしろい。

シーズン中の戦いで、リーグ優勝チームのみならず、上位3チームに特典が与えられる。

その特典にあたるクライマックスシリーズでさらにトーナメントを行い、そこで最後に残ったチームが日本シリーズに出られる。

これは、シーズン3位に終わってしまったチームにとってのメリットは大きい。

要するに、クライマックスシリーズは「頑張った上位チームには『敗者復活戦』というチャンスが与えられる」のである。

多くの物流現場を診ていると、クライマックスシリーズに出ることができる

上位3チームにあたる「Aクラス現場」となる現場と、そうでない下位3チームの「Bクラス現場」が存在する。

何がそのAクラスとBクラスを分けているのかというと、

端的に述べれば「5S」の成否である。整理、整頓、清掃、清潔、躰ができていないか否か。

「5S」が成されている「Aクラス現場」では、改善を進めていくプロセスでトライ&エラー、いわゆる「敗者復活戦」を行うことができるが、「Bクラス現場」ではトライ&エラーができない。

なぜなら、トライ（挑戦）とエラー（間違い、ミス）を繰り返すだけの気力と知力がなからである。

「Aクラス現場」は、トライ&エラーから強烈な反省の中に教訓やルールを導き出し、日々進化し、改善の質とスピードを上げていく。

同様に、日本シリーズに入っても気力と知力のある選手は日々調子を上げ、進化していくようである。

更に重要な共通点がある。それは両方ともAクラスレベルに達するとよほど大きな原因がない限り、短期間で崩れることはないということである。

---

毎年、セ・リーグ、パ・リーグの上位3チームの顔ぶれはほとんど変わらないように、改善を突き詰めた現場では治癒力養われ、システムトラブル、欠員などではビクともしなくなるのである。

毎年、Aクラスに入る現場をつくりたいものですね。